学びの音

城下小学校　校長室だより
令和５年 12 月 26 日

「真田信繁（さなだのぶしげ）」によせて

先日、上田市にある真田神社より１体のブロンズ像が寄贈されました。（市内全小中学校）いただいた像がこの人物の像です。像には「青年真田幸村（信繁）公之像」と記されています。

皆さんは、「真田幸村」という人物を知っていますか。「真田幸村」は今から約 400 年前の、ここ上田の地における武将です。上田の駅前に像がありますね。「幸村」という名前は、幸村が亡くなった後に呼ばれるようになったものであり、本当の名前は「真田信繁」という人物です。

さて、皆さんはこのような六つのお金、「六文銭」と言われていますが、この「六文銭」を見たことがありますか？この「六文銭」は、真田家の「家紋」にもなっていて、真田家を象徴するものといってもよいかもしれません。

真田家に直接関係のあるものはもちろん、「上田駅の駅舎」、「マンホールのふた」、「街灯の支柱」等に描かれているなど、今なお上田に、上田にゆかりのある多くの人々の心の中に根付いていると思います。

真田氏によって上田にお城が築かれてから江戸時代の終わりまで、約 300 年。上田の地は真田氏の後も「仙石氏」「松平氏」などによって治められてきました。そのうち、真田氏が治めた期間は約 40 年間と言われています。40 年の間しか上田に関わらなかった真田氏が、なぜこれほどまでに上田に根付いているのでしょうか。

上田に城を築き、今につながる町づくりをした真田氏、雨の少ない上田の地に、多くの「ため池」づくりを進めた真田氏。さらには、上田に攻め入った徳川氏に対し、2 度にわたり、少数でありながら多数の徳川勢から領地を守った真田氏等、今に至るまで上田に根付いている理由が分かるような思いがします。

晩年、真田信繁は、大坂の陣において豊臣方につき、奮闘しながらも夏の陣で波乱に満ちた生涯を閉じました。なお「信繁」という名前がなぜ「幸村」と呼ばれるようになったのかは、江戸時代は徳川氏が幕府を開いていたことと大きな関りがあります。興味のある人は調べてみてください。

信繁が亡くなった地では、信繁を偲びブロンズの像が建てられています。学校でいただいた像は、その像を制作された方が作ってくださったそうです。

上田の地をあるいてみると、色々な方の像や碑が建てられたりしています。この人物は「山極勝三郎」博士、世界で初めて人工の「癌」を作ることに成功し、その後の医学の発展に大きく寄与した人です。皆さんもこれらの人々の業績に、深く迫ってみるといいですね。

これらの人々や上田に対する見方や考え方が変わるかもしれませんね。

さて、明日から冬休みになります。今年を見つめると共に、新たな年の素敵なスタートができることを願っています。